

SONORA XJ

H-UV印刷機で 5万枚の刷了実績

株式会社アトミ



H-UV印刷+ SONORA XJプロセスフリープレートで、特殊原反や特色インキを使った、品質要求度の高い仕事を難なく処理。印刷機の仕立てを変えることなく今までと同じように刷れ、印刷品質も格段に向上。

高付加価値・高難度の仕事に 先進的な設備と秀でた人材で対応

東京郊外の小平市に本社を構える株式会社アトミは、先進的な印刷技術を積極的に導入しながら、印刷業界に独自の地位を築き上げてきた気鋭の印刷会社である。コダック（旧 CREO 社）製 CTP、Lotem1 号機の日本初導入をはじめ、印刷機メーカーとの共同開発による HUV 印刷機の世界初導入、広演色（RGB）印刷の採用など、同社が先鞭をつけた印刷技術は枚挙に暇がない。1969 年の創立以来、同社は規模を追うことなく、先進的な設備と優れた人材をもって、美術関係をはじめ他社が敬遠する高品位・高難度の仕事に向かいあいながら、

「SONORA XJ は、印刷品質が抜群にいいですね。網点はシャープで非常にきれいなので、当社の大きな強みになると実感しています」

卓越した印刷技術とスキルを育み自社の強みとしてきた。現在では地元多摩を中心に都内の教育機関、美術館、企業、研究所、自治体など幅広い顧客から高い信頼を獲得している。



取締役 システム管理部部長 高橋 学 氏



製造部部長 村瀬 直之 氏



高品質・高難度の印刷物は同社の得意分野



H-UV 印刷機を 3 台設備(写真は A 全 4 色機)



CTP ワークフローはコダックで統一



第 31 回全日本 DM 大賞に入賞した年賀状

徹底したテストで全く問題ないと判断し、SONORA XJ を全面採用

同社が初めて KODAK SONORA XJ プロセスフリープレートに興味を持ったのは、発表直後の 2015 年夏のこと。以前より CTP の現像廃液をコンクリートとして再利用するコダックの「マテリアルリサイクル」プロジェクトに参加するなど、高い環境意識を持っていた会社にとって、廃液ゼロは長年の目標だった。新技術の採用に積極的な社風もあり、すぐに印刷テストを実施したが、発売当初の SONORA XJ は絵柄が見にくく、検版への不安から採用は見送られた。ミスが起こりやすい特色のヌキやノセの最終確認に検版が欠かせなかったためだ。ただ同社が指摘した検版の重要性は、コダックでも共有されて改良版の早期開発につながった。翌年、視認性を 1.5 倍高めた改良版が出ると、同社はためらいなくテストを再開した。取締役 システム管理部部長の高橋学氏はその理由について次のように話している。

「環境対応を含めて、無処理版の方向性に間違いはないので、本格採用を前提としたテストを始めました。最新技術をものにできるのなら、テストをためらう理由はありません」

同社のオフセット印刷部門では、特殊原反（ストーンペーパー、アルミ蒸着紙、プラスチック素材など）や特色インキ（金、銀、白など）を多用した難易度の高い仕事が多く、これらを 3 台の H-UV 印刷機でこなしている。ジョブのなかには KODAK STACCATO スクリーニングによる高精細印刷や広演色印刷もあって、検証すべき項目は多岐にわたった。それでも様々な仕事で実運用と並行しながらテストを続け、SONORA XJ の運用に自信を深めていった。そして 2017 年 5 月には自動現像機を完全撤去し SONORA XJ への全面移行を果たした。高橋取締役は「印刷適性をもれなくチェックしたので問題は全くない」と SONORA XJ の性能に太鼓判を押した。

SONORA XJ の圧倒的な印刷品質を新たな強みに

製造部部長の村瀬直之氏は、テスト段階から SONORA XJ の印刷品質を絶賛している。

「SONORA XJ は、印刷品質が抜群にいいですね。網点はシャープで非常にきれいです。現像処理によるドットの変化がないので、従来の現像プレートと比較してより安定した品質が望めます。特に FM スクリーンによる高精細印刷では、大きな強みになると実感しました」

アナログ的な現像処理工程がなくなり、KODAK SQUAREspot イメー

ジングテクノロジーの能力が遺憾なく発揮されて「エッジの立ったシャープな網点ができている」と高橋取締役もその品質を高く評価する。「きれいに刷れている」と顧客の評判も良い。さらに SONORA XJ の使い勝手について、村瀬部長は「印刷機の仕立てを変えることなく、現像有り版と同じように刷れる。違和感はない」と断言する。刷り出しの早さも今まで通りとのこと。耐刷性は仕事内容によって異なるが、最大 5 万枚の刷了実績も達成している。当初、機上現像という新しい技術に戸惑っていたオペレータも、すぐに慣れたという。先進技術を積極的に取り入れる進取の気風は、社員ひとり一人にまで浸透している。村瀬部長も「つねに印刷の未来を意識している」と新しい技術に触れ、活用してゆくことを心の底から喜んでいる。

TRENDSETTER で月平均 2,000 版を出力

同社の製版部門では、イメージセッターの時代からコダック（旧 SCITEX、CREO）製品に絶大な信頼を寄せて長年にわたり使い続けてきた。現在は最新バージョンにアップグレードした KODAK PRINERGY と 3 代目の CTP となる KODAK TRENDSETTER で、信頼性の高い CTP ワークフローを構築。A 全 4 色機をはじめ合計 3 台の H-UV 印刷機を擁する印刷部門に、月平均 2,000 版の SONORA XJ を供給している。完全無処理版になって、製版オペレータの負担は大きく軽減された。顧客からの要望が強かった環境対策も前進した。急ぎの仕事でもすぐに出力できる「完全無処理版ならではの瞬発力は大きな魅力だ」と高橋取締役は予想外の効果を指摘する。新しい技術の導入に二の足を踏む企業は多い。それでも同社は恐れることなく、現状に甘んじることなく、つねに最新の印刷環境を構築し続けている。こうした同社のチャレンジを、コダックもまた革新的な技術開発で支えてゆこうとしている。



株式会社アトミ

代表取締役会長：有田昌城

代表取締役社長：五十嵐容子

〒187-0031 東京都小平市小川東町 5-13-22

TEL：042-345-1155

FAX：042-343-3517

<http://www.atomi.co.jp/>

この印刷物は、KODAK SONORA XJ プロセスフリープレートを使用して印刷しています。

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2017-06

